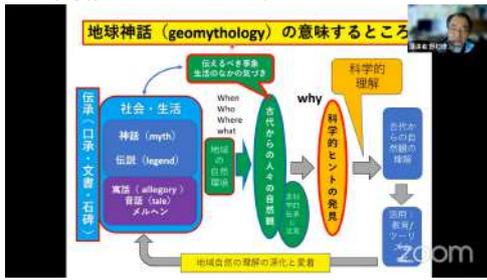


1/28 日本地質学会シンポジウム ＜ジオパークの地域に伝わる伝承と地質学：古代からの自然観を今に活かす＞

日本地質学会の市民対象オンラインシンポジウムが開催されました。欧米では、神話や伝説で語られている地質・地形・自然科学を、科学的に解釈する学問が活発化しています。一昨年のJGNの島根半島・宍道湖中海全国大会でも、12のジオパークから地域で語られている神話・伝説を持ち寄り、多様な地質や地形と関連した事例がたくさん発表されました。

今回のシンポジウムは、①地域の伝承が私たちの生活基盤である地質・地形と密接な関係であることを再認識し、地域資源としての活用すること②自然の保護保全・防災意識などのジオパーク的活動への理解を深めること、をテーマとしています。また今後、自然科学としての地質学と文化人類学との学術的な連携・研究を進めていくことを目指して開催されました。



- ＜発表の内容＞
- ・地球神話をジオパーク活動にもっと活かそう＜島根半島、宍道湖中海（国引き）GP＞
 - ・アイヌ民族の伝承とジオパーク＜アポイ岳 GP＞
 - ・磐梯山に伝わる殿札・昔話＜磐梯山 GP＞
 - ・大国主命（出雲）と奴奈川姫（古志）の伝説からたどる糸魚川 GP の景観
- ＜フォッサマグナミュージアム＞
- ・日本3大奇観「妙義山」にまつわる伝説巨人が射抜いた穴―星穴伝説―＜下仁田 GP＞ …他

美しい奇岩や地形、災害などにしばしば伝説が付着するのは、大地の遺産が人間の生活とは別のものではないことを示しています。その土地に住む人々の背景や自然の見方を垣間見ることができ、人文的分野と地形や地質といった科学的な分野、この異分野を横断的な視点で見ると、地域遺産として持続可能な社会をつくることに繋がっていきと考えられているそうです。



富山県にもたくさんの昔話や伝承があります。改めて読んでみると、それらの背景に周囲の地形や地質が関係しているのでは？と思われるものも多いように思います。例えば、山岳信仰を絵解きによって布教するための絵図：立山曼荼羅に示されているように、立山開山伝説の佐伯有頼の話、美女杉の話、地獄の話など地形や地質に関わり多数伝えられています。立山信仰は、地質・地形とかわる人々の暮らしそのもの、地域固有の大切な財産だと考えられています。

＜富山に伝わる民話・伝説より あらすじ…諸説あります＞

①入善町：園家千軒とおとらばあさん

園家に砂山が無かったころここは港町で、おとらばあさんが住んでいた。ある晩のこと、おばあさんが大津波が来ることを予言したが、誰一人として信じる者がいなかった。2、3日たった真夜中に大津波が押し寄せ、村は大津波に飲み込まれて大きな砂山になってしまった。

②黒部市：愛本の大蛇の話

古くから黒部川は暴れ川として有名で、黒部川が氾濫するのは川の底に住む大蛇が大暴れするからだと考えられていた。愛本橋のそばにあるお茶屋の娘、お光は恋仲になった若者に嫁いだが、その若者は実は黒部川に棲む大蛇だった。子供を産みに戻ってきたお光は、大蛇になった姿を両親に見られ悲しむ。そして両親にちまきのつくり方を教え黒部川に帰っていった。

会員のみなさんが暮らす地域に伝わる昔話や伝説を「昔の作り話でしょ？」と思わず「地形や地質に関わっているのでは？」という新たな視点で読むことで、当時の人々がどのように自然や地球活動に向き合ってきたかが垣間見えてきます。昔話や伝説という親しみやすさを教育やツーリズムの中で活かすことができれば、地域の魅力を再発見するきっかけになるのではないかと思います。



1/22 全国ユネスコスクール ESD 発表会

ESDの研究発表会が開かれました。ESDはSDGs達成の担い手育成事業としてジオパーク・エコパークが連携して行われています。全国の小・中・高校体験活動が発表される中、ICTを活用して子供自らが積極的に情報発信し社会に関わった事例

や、学校でカリキュラムマネージメントを行いながら人材リストを作って、学習に地域人材を活用したという発表がありました。他にも体験活動を重視する事例など、課題解決に向けてどのようなプロセスで子供たちを育てたいのかという点で、それぞれの学校の工夫が見られました。富山県では小・中・高校計15校がユネスコスクールに加盟しています。またHPで活動の様子をご覧いただければと思います。





富山市科学博物館

①ロビー展「おっきくして見る砂の世界」

富山をはじめ、全国各地であつめた「砂」の顕微鏡写真をおして、砂の特徴や多様性を紹介します。

期間 2023年2月18日(土)～4月2日(日)

場所 2階ロビー

観覧料必要(高校生以下無料)

②かがくのおはなしとじっけん

科学博物館ボランティアが、蜃気楼をテーマにした絵本「いかせのうろきんし」の読み聞かせをし、その後、蜃気楼の仕組みがわかる実験を行います。

お話する人：科学博物館ボランティア
実験の先生：木下正博さん

(日本蜃気楼協議会会長)

期日 2023年3月5日(日)

場所 休憩室

定員 24名(先着順)

観覧料必要(高校生以下無料)、申込不要

*他のイベントなどについてはHPをご覧ください。

<https://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

特別企画

かがくのおはなし
とじっけん



3月5日(日)



黒部市吉田科学館

①ジオ&みずはくツアー2022

扇状地の春を散策しよう(春の息吹を感じよう)

黒部川扇状地の成り立ちと、水・自然・歴史に関する名所をバスで巡る体験型フィールドツアーです。

期日 2023年3月12日(日)

料金 500円(資料代、保険代等)

※但し、小学生以下は無料

申込 2/12(日)～受付開始

電話もしくは科学館で直接お申込み下さい。

定員 25名(先着順、小学3年生以下は保護者同伴)

*集合時間、持ち物、注意事項等、詳細については右下のQRコードやHPからご覧ください。



魚津埋没林博物館

①万華鏡をつくろう

博物館オリジナルの万華鏡を作り、自然を楽しみましょう。

日時 2023年3月4日(土) 10:00～11:00

場所 魚津埋没林博物館

参加費 300円

対象 小学生～一般

定員 20名(申し込み順)

※参加ご希望の方は、埋没林博物館まで電話(0765-22-1049)でお申し込みください。



※グルーガン(ホットボンド)等を使用する工作があるため、小学校3年生以下の方は保護者同伴での参加をお願いいたします。付き添い(保護者)の方の入館料は不要です。

②「自然の神秘 絵のような世界 蜃気楼」

写真家 大野隆雄 写真展

蜃気楼に興味がある人、初めて見る人、今年絶対見たいという人に、おすすめの写真展。プロの写真家が撮影した蜃気楼写真を参考に魚津で本物の蜃気楼を見よう!

期間 2023年3月5日(日)

～4月29日(土)

場所 無料エリア内



大野隆雄さんの
蜃気楼の写真



*詳細については、HPをご覧ください。



魚津水族館

スペシャルイベント ☆ホタルイカ展示☆

2023年3月17日(金)～5月21日(日)

①生体展示

魚津産!朝獲れキトキトの元気なホタルイカを毎朝搬入!うす暗い水槽の中を泳ぐホタルイカのシルエットが観察できます。

場所:2階 富山湾のトピックスコーナー



②ホタルイカ写真水槽

「ホタルイカと一緒に記念写真を撮りたい!」というご要望につき、ホタルイカ写真水槽を作製しました!鏡を使ったミラクルな水槽でホタルイカとツーショット写真にチャレンジ!

場所:2階 アマモ場コーナー

③土・日・祝は☆☆ホタルイカ発光実験☆☆

3月18日(土)～5月21日(日)土・日曜・祝日

今年から解説用の動画を制作しました!ホタルイカはどうして光るのか?どこが光るのか?

飼育員が分かりやすく解説。開催時間、

参加費、定員など詳細については、

右のQRコードやHPからご覧ください。



立山黒部ジオパーク

TATEYAMA KUROBE GEOPARK



■ たてくろ 見どころ紹介コーナー

せんがんけい 千巖溪

大岩山日石寺の摩崖仏と同じ凝灰岩からなる奇岩

(上市町：上市町・白岩川エリア)

全山不動信仰、仏緑の聖地

大岩山日石寺の六本滝を横に130メートル下ると、千巖溪(せんがんけい)と呼ばれる美しい渓谷があります。標高160mにある東西約200mの狭い流域は百滝溪とも称され、風情溢れる数多くの奇岩とその間を流れる滝の水しぶきの美しさに圧倒されます。

これらの奇岩は、火山活動がもたらした火山砕屑岩で、日本海拡大の過程で噴出した約1千6百万年前の岩石です。川の流れることによって川底や側面が削られ、峡谷や滝が作られました。日陰で多湿なことから、岩々は一面緑の苔やシダ類に覆われ独特の景観を形成しています。ひんやりとした澄んだ空気と四季折々の風情が、訪れた人々の癒しの空間になっています。

千巖溪は立山黒部ジオパークのジオサイトに登録されています。

<https://tatekuro.jp/enjoy/pointDetail.php?id=17>



■ 協会会員企業の紹介



無限の可能性にチャレンジ

株式会社
ジェック
経営コンサルタント

〒930-0805 富山市湊入船町3番-30号
TEL (076) 444-0035 FAX (076) 444-1135



ニュースのチカラで、
きっといい明日に。

ライブBBT

毎週月～金 夕方 3:45～7:00 放送

富山テレビ

< 編集後記 >

久しぶりに富山県の民話の本を読みました。知っている話もありましたが、各地に伝わる話は様々で、改めておもしろいなと思いました。今度図書館へ行って、ジオパーク的視点を持ちながらじっくりと読んでみたいと思っています。

アルペンルートの除雪が始まりました。昨年と比べると雪の量は少なく、雪の大谷の高さは昨年より少し低いそうです。協会のHPでもジオパークの拠点施設の春バージョンの企画をアップしているのでぜひご覧ください。来月号では、3月に行われたイベントや新しい事業などをお知らせする予定です。



立山黒部ジオパーク協会では、富山県東部地域の魅力を世界へ発信するために、民間活力を活かしたジオパーク活動を行っています。私たちの活動を支援して下さる方、手助けをして下さる方をお待ちしています。ジオパークの活動に興味のある方は、立山黒部ジオパーク協会 (076-431-2089) までお問い合わせください。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

